

修士論文

学位論文の 体裁に関する研究

東工大 太郎

18M00000

東京工業大学
情報理工学院
知能情報コース

指導教員 情報 一郎
副指導教員 工学 次郎

2020 年 1 月

概要

修士論文は、シングルカラムでページ数に制限はない。

目 次

概要	0
第 1 章 序論	1
1.1 本研究の位置付け	1
第 2 章 結論	2
謝辞	3
参考文献	4

目 次

1.1 3次元の球	1
---------------------	---

表 目 次

1.1 要素群	1
-------------------	---

第1章

序論

本論文は、修士論文の書き方 [1] の一例を示す。

1.1 本研究の位置付け

ここでは、色々なサンプルを示す。次の式 (1.1) の通り n 次元の超球を仮定する。 $n = 3$ の場合は図 1.1 のようになる。

$$r^2 = \sum_{k=1}^n x_k^2 \quad (1.1)$$



図 1.1 3 次元の球

一方で、表 1.1 によれば、a,b,c,d の 4 つの要素がある。

a	b
c	d

表 1.1 要素群

第2章

結論

結論は、網羅的にかつ簡潔に [2]。

謝辞

本論文の執筆にあたり、議論して頂いた関係者に感謝する。

参考文献

- [1] 東工大 太郎, “良い論文の書き方”, *Journal of XYZ*, Vol. 3, No. 5, pp. 15–34, 2015.
- [2] Hanako Tokodai, ”how to write a good paper”, *Journal of ABC*, Vol. 12, No. 4, pp. 123–144, 1996.